参考資料

１．田村駅周辺整備基本計画策定の経緯

２．田村駅周辺整備基本構想推進会議委員名簿

３．田村駅勢圏の人口の推移

４．田村駅利用実態調査

５．田村駅利用者ワークショップ、アンケート概要

６．用語の解説

１．田村駅周辺整備基本計画策定の経緯

年月日	会議名称等	内　容
平成 29 年 ５月 16 日	第１回田村駅周辺整備基本構想推進会議	・田村駅周辺整備基本構想推進会議について ・田村駅周辺整備基本計画の方向について
平成 29 年 ８月１日	第２回田村駅周辺整備基本構想推進会議	・基本構想想定区域の段階的整備イメージについて ・具体的な都市施設の整備について
平成 29 年 10 月 26 日	第３回田村駅周辺整備基本構想推進会議	・田村駅周辺都市施設の整備（案）について ・田村駅を中心とするまちづくりビジョン（案）について
平成 29 年 11 月 15 日 ～ 11 月 29 日	利用者ワークショップ 利用者アンケート	・田村駅利用者等を対象にワークショップによって田村駅周辺整備の意見を聴取 11 月 15 日：滋賀文教短期大学 11 月 22 日：長浜バイオ大学 11 月 28 日：子育て応援カフェ LOCO 【参加者合計：60 人】 ・田村駅利用者等を対象にアンケートによって田村駅周辺整備の意見を聴取 11 月 29 日：田村駅（東口・西口） 【アンケート回答者：149 人】
平成 29 年 12 月 22 日	第４回田村駅周辺整備基本構想推進会議	・駅前広場や駅施設等の機能について
平成 30 年 １月 23 日	第５回田村駅周辺整備基本構想推進会議	・田村駅を中心とするまちづくりビジョンコンセプトについて ・田村駅周辺整備基本計画（素案）について
平成 30 年 ２月 16 日～ ３月 19 日	パブリックコメント	・田村駅周辺整備基本計画（素案）について都市計画課、市政情報コーナー（本庁舎１階）、北部振興局・各支所、市ホームページで意見募集 【意見：１人、８件】
平成 30 年 ４月 17 日	第６回田村駅周辺整備基本構想推進会議	・田村駅周辺整備基本計画最終案について
平成 30 年 ５月９日	庁議	・田村駅周辺整備基本計画の策定について

※　ワークショップ、アンケートの詳細については、P.43 を参照のこと

２．田村駅周辺整備基本構想推進会議委員名簿

（敬称略）

氏　名	所属	備考
仁連　孝昭	滋賀県立大学　名誉教授	アドバイザー （学識経験を有する者）
井　　経子	社会福祉法人石龍会 チャイルドハウス　園長	１号委員 （関係団体を代表する者又は関係団体の推薦を受けた者）
綺田　　新	田村町自治会　自治会長	１号委員 （関係団体を代表する者又は関係団体の推薦を受けた者）
小八木　一男		
川﨑　他家廣	長浜地方卸売市場株式会社 代表取締役	１号委員 （関係団体を代表する者又は関係団体の推薦を受けた者）
辻村　忠嗣	田村町まちづくり委員会 委員長	１号委員 （関係団体を代表する者又は関係団体の推薦を受けた者）
畑下　嘉之	社会福祉法人青祥会　理事長	１号委員 （関係団体を代表する者又は関係団体の推薦を受けた者）
本田　智見	一般社団法人長浜青年会議所 新湖北創造委員会　副委員長	１号委員 （関係団体を代表する者又は関係団体の推薦を受けた者）
金子　剛士	一般社団法人長浜青年会議所 新湖北創造委員会　委員長	
松本　秀章	滋賀文教短期大学　副学長	１号委員 （関係団体を代表する者又は関係団体の推薦を受けた者）
若林　浩文	長浜バイオ大学　理事長	１号委員 （関係団体を代表する者又は関係団体の推薦を受けた者）
伊藤　寿彦	六荘地域づくり協議会 総務部長	１号委員 （関係団体を代表する者又は関係団体の推薦を受けた者）
西嶌　照毅	滋賀県長浜土木事務所　所長	２号委員 （関係行政機関の職員）

（平成３０年５月現在）

※　委員の交代があった場合、氏名欄等の上段は前任、下段は後任の委員を示す。
※　委員の所属については、委員就任当時のものとする。

３．田村駅勢圏の人口の推移

田村駅を中心とした半径 2km の範囲内を駅勢圏として、この圏内における長浜市の大字（平方、四ツ塚、勝、大辰巳、大成亥、下坂中、寺田、田村、髙橋、下坂浜、平方南、弥高、加田）ごとの直近 10 年間（2008～2017 年）の人口推移を示すと、次の表のとおりとなる。これを見ると、駅勢圏としては、おおよそ人口増加傾向にあり、2008 年と 2017 年を比較すると、4.1%（405 人）の人口増となっている。

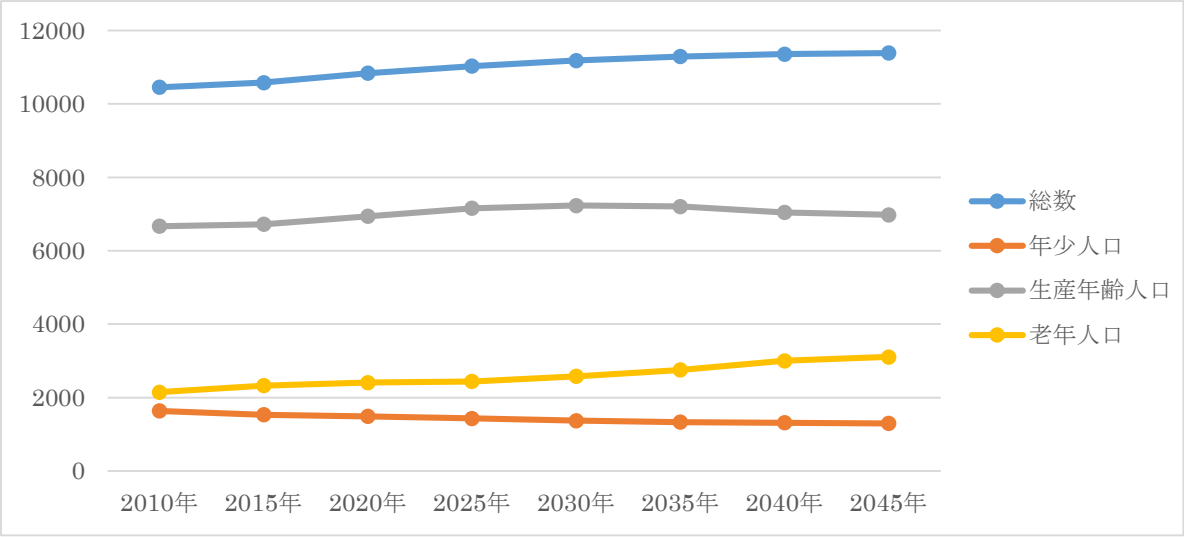
○田村駅勢圏における大字ごとの人口推移

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
267 平方	2,948	3,015	2,999	3,022	3,056	3,055	3,017	3,070	3,116	3,136
268 四ツ塚	952	931	956	957	946	962	951	931	911	907
269 勝	1,387	1,390	1,363	1,377	1,375	1,348	1,370	1,410	1,405	1,414
270 大辰巳	276	282	346	354	360	383	402	426	427	425
273 大成亥	860	896	880	886	909	923	912	939	956	944
274 下坂中	142	139	145	135	144	146	151	143	153	147
275 寺田	165	162	156	159	159	158	155	152	145	146
276 田村	385	391	400	397	381	381	385	395	390	390
277 髙橋	196	196	192	192	188	186	183	177	173	168
278 下坂浜	321	340	370	385	389	396	399	431	416	448
279 平方南	273	278	273	280	281	276	289	298	285	295
282 弥高	604	621	633	624	634	649	658	673	670	652
430 加田	1,291	1,277	1,263	1,241	1,228	1,222	1,200	1,163	1,148	1,133
計	9,800	9,918	9,976	10,009	10,050	10,085	10,072	10,208	10,195	10,205

ここから国勢調査（H20、H25）のデータを用い、次の仮定でコーホート要因による将来人口を推測（名古屋大学大学院附属持続的共発展教育研究センター提供小地域ごとの簡易人口推計ツールによる）すると、推計値は以下のとおりとなる。

【仮定】　合計特殊出生率を社人研の推計値から１．５とし、社会増として１年ごとの世帯移動を１１とする。（上表から 45 人／年の増加があることから、４人／世帯とした場合の世帯の純移動）

○田村駅勢圏の総人口推移及び年齢３区分別人口の推移



この推計では、田村駅勢圏における 2045 年の人口総数は 11,385 人となり、おおよそ 30 年後の予測人口は 2017 年現在と比べて、約 1,200 人の人口増加が予想される。

４．田村駅利用実態調査

田村駅利用者（鉄道乗降者数）の実態を把握するため、始発電車から終点電車までの乗降者のカウント調査を行い、田村駅周辺整備基本計画における将来利用者の予測などの参考資料とした。

〇田村駅利用実態調査概要

・調査方法

田村駅舎の出入り口、構内及び駅ホーム上にて、列車別に乗降者数をカウントする。

・調査日時

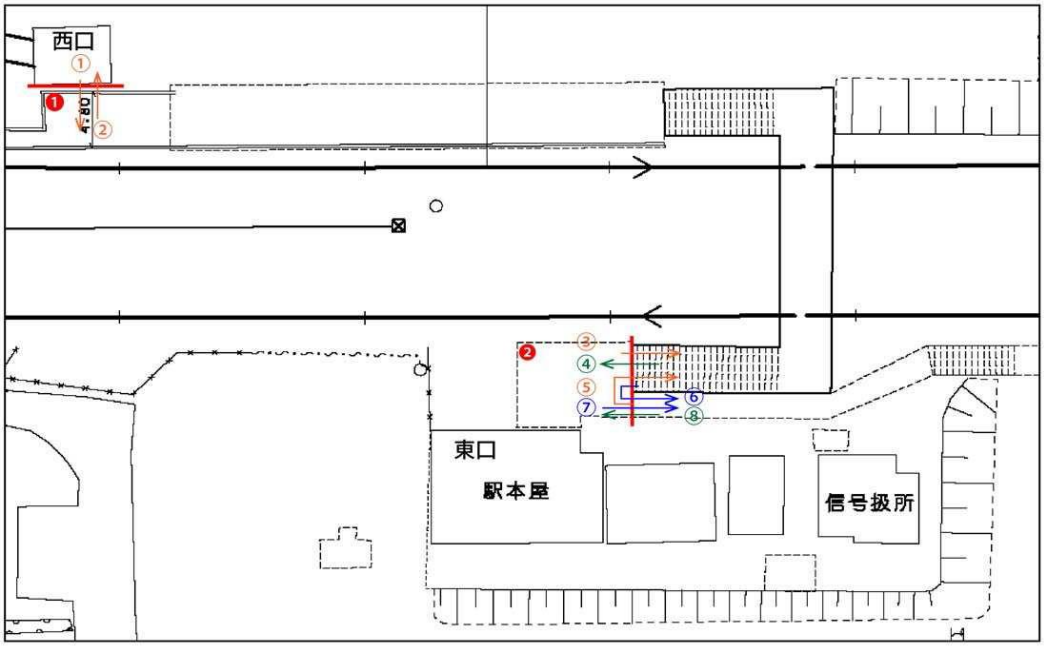
平成 29 年 10 月 26 日（木）5:30～24:00　＜平日＞

平成 29 年 11 月 5 日（日）5:30～24:00　＜休日＞

・調査区分

区分	詳細（年齢区分等）
一般（学生以外）	通勤者 12 歳以上の男女（通学者を除く） 12 歳未満の男女（乳児を除く）
学生	通学者（小・中・高の制服を着た学生） 大学生（調査員の黙示判断による）

・調査箇所図



【西口】　入場　①　　出場　②
【東口】　入場　③＋⑦　出場　④＋⑧

・調査結果概要

◆平日

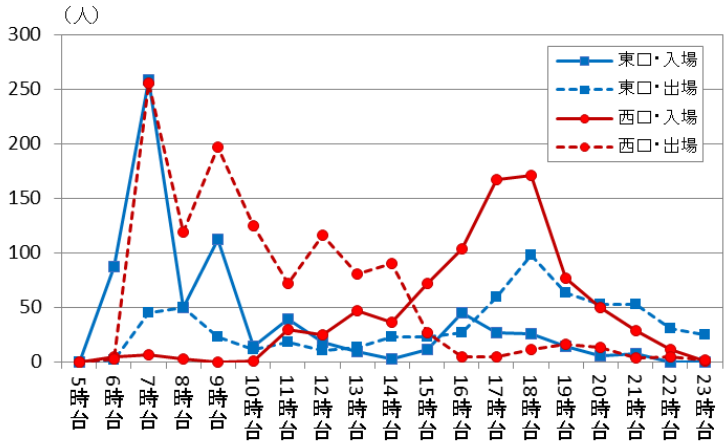
西口

方向・分類 / 時間帯	西口入場 一般通勤者	一般12歳以上	一般12歳未満	学生小中高	学生大学生	入場計	西口出場 一般通勤者	一般12歳以上	一般12歳未満	学生小中高	学生大学生	出場計	出入計
5時台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6時台	0	2	0	0	3	5	3	0	0	0	0	3	8
7時台	5	0	0	1	1	7	20	0	0	232	3	255	262
8時台	2	0	0	0	1	3	23	0	2	61	33	119	122
9時台	0	0	0	0	0	0	21	2	0	0	174	197	197
10時台	0	1	0	0	0	1	4	0	0	0	121	125	126
11時台	1	1	0	26	2	30	3	1	0	9	59	72	102
12時台	0	2	0	15	8	25	25	1	0	21	69	116	141
13時台	2	1	0	23	21	47	1	1	0	6	73	81	128
14時台	1	0	0	26	9	36	0	2	0	83	5	90	126
15時台	0	0	0	0	72	72	3	4	0	18	2	27	99
16時台	4	1	0	51	48	104	1	1	0	0	3	5	109
17時台	7	4	0	40	116	167	0	0	0	2	3	5	172
18時台	24	0	0	58	89	171	2	0	0	8	1	11	182
19時台	13	1	0	0	63	77	5	2	0	0	9	16	93
20時台	9	0	0	0	41	50	4	1	0	2	6	13	63
21時台	1	0	0	0	28	29	2	1	0	0	1	4	33
22時台	2	0	0	0	9	11	1	2	0	0	2	5	16
23時台	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	2	3
日計	71	13	0	240	512	836	118	18	2	442	566	1,146	1,982

東口

方向・分類 / 時間帯(時台)	東口入場 一般通勤者	一般12歳以上	一般12歳未満	学生小中高	学生大学生	入場計	東口出場 一般通勤者	一般12歳以上	一般12歳未満	学生小中高	学生大学生	出場計	出入計
5時台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6時台	46	0	0	33	8	87	1	0	0	1	0	2	89
7時台	142	1	1	86	28	258	13	0	0	30	2	45	303
8時台	16	8	0	13	13	50	25	0	0	5	20	50	100
9時台	11	11	0	83	7	112	1	5	0	0	17	23	135
10時台	1	6	0	6	1	14	1	0	0	0	10	11	25
11時台	0	11	0	19	9	39	0	0	0	15	3	18	57
12時台	1	8	0	8	1	18	1	2	0	5	2	10	28
13時台	2	3	0	1	3	9	0	3	0	5	5	13	22
14時台	0	2	0	0	1	3	2	4	0	8	9	23	26
15時台	1	4	1	2	3	11	2	6	0	2	13	23	34
16時台	3	3	0	3	36	45	4	3	0	6	14	27	72
17時台	1	8	0	7	11	27	4	10	1	18	26	59	86
18時台	7	5	0	5	9	26	31	6	0	20	41	98	124
19時台	5	1	0	4	4	14	23	9	0	15	16	63	77
20時台	1	0	0	0	5	6	31	6	0	3	13	53	59
21時台	1	0	0	0	7	8	39	0	0	5	9	53	61
22時台	0	0	0	0	0	0	16	5	0	4	6	31	31
23時台	0	0	0	0	0	0	13	2	0	4	6	25	25
日計	238	71	2	270	146	727	207	61	1	146	212	627	1,354

【改札・入出場別利用者数】



午前中においては、東口からの入場と西口への出場が多く、午後においては西口からの入場が全体的に多い。西口からの入場は 17～19 時にピークを迎える。

・調査結果概要

◆休日

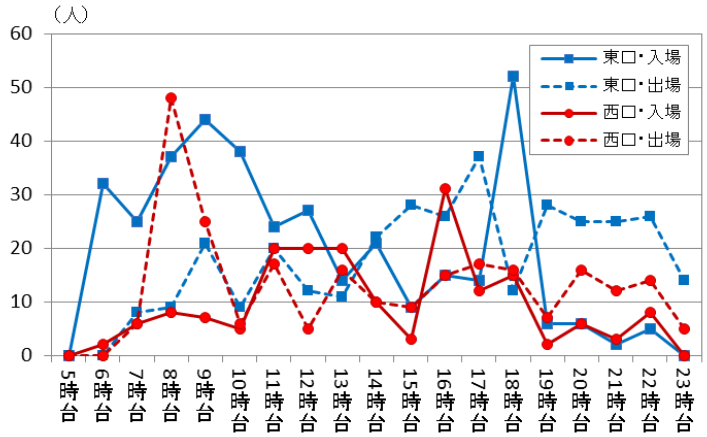
西口

方向・分類 / 時間帯	西口入場 一般 通勤者	一般 12歳以上	一般 12歳未満	学生 小中高	学生 大学生	入場計	西口出場 一般 通勤者	一般 12歳以上	一般 12歳未満	学生 小中高	学生 大学生	出場計	出入計
5時台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6時台	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
7時台	0	3	0	3	0	6	0	5	0	0	1	6	12
8時台	1	1	0	4	2	8	3	0	0	40	5	48	56
9時台	3	0	0	1	3	7	8	0	0	7	10	25	32
10時台	1	3	0	1	0	5	0	2	0	0	4	6	11
11時台	1	12	0	0	7	20	0	7	3	0	7	17	37
12時台	0	10	1	0	9	20	0	4	0	0	1	5	25
13時台	0	9	1	0	10	20	0	11	2	0	3	16	36
14時台	0	5	1	0	4	10	0	4	1	5	0	10	20
15時台	0	2	0	0	1	3	0	8	0	0	1	9	12
16時台	1	2	0	26	2	31	10	0	2	1	2	15	46
17時台	2	2	0	6	2	12	0	13	0	1	3	17	29
18時台	3	4	0	6	2	15	1	14	0	1	0	16	31
19時台	0	2	0	0	0	2	0	3	0	2	2	7	9
20時台	1	5	0	0	0	6	4	10	2	0	0	16	22
21時台	0	3	0	0	0	3	0	12	0	0	0	12	15
22時台	0	8	0	0	0	8	0	14	0	0	0	14	22
23時台	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5	5
日計	13	73	3	47	42	178	31	107	10	57	39	244	422

東口

方向・分類 / 時間帯(時台)	東口入場 一般 通勤者	一般 12歳以上	一般 12歳未満	学生 小中高	学生 大学生	入場計	東口出場 一般 通勤者	一般 12歳以上	一般 12歳未満	学生 小中高	学生 大学生	出場計	出入計
5時台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6時台	8	9	0	15	0	32	0	0	0	0	0	0	32
7時台	3	15	0	6	1	25	1	5	1	1	0	8	33
8時台	2	29	0	1	5	37	0	9	0	0	0	9	46
9時台	1	32	11	0	0	44	0	19	2	0	0	21	65
10時台	2	33	2	1	0	38	0	5	2	1	1	9	47
11時台	6	16	1	1	0	24	6	11	0	2	1	20	44
12時台	1	18	5	1	2	27	0	12	0	0	0	12	39
13時台	7	4	1	2	0	14	0	10	0	0	1	11	25
14時台	17	2	1	1	0	21	5	10	0	7	0	22	43
15時台	0	6	1	2	0	9	0	17	2	7	2	28	37
16時台	0	11	0	4	0	15	1	23	0	2	0	26	41
17時台	0	13	0	1	0	14	5	18	2	8	4	37	51
18時台	11	24	12	5	0	52	5	6	0	1	0	12	64
19時台	6	0	0	0	0	6	1	23	0	4	0	28	34
20時台	4	2	0	0	0	6	1	19	5	0	0	25	31
21時台	0	2	0	0	0	2	19	1	0	0	5	25	27
22時台	0	5	0	0	0	5	3	21	0	1	1	26	31
23時台	0	0	0	0	0	0	1	13	0	0	0	14	14
日計	68	221	34	40	8	371	48	222	14	34	15	333	704

【改札・入出場別利用者数】



平日と比べると１／３程度と利用者がかなり少ない。午前中においては、東口からの入場と西口への出場が多く、午後においては東口への出場が全体的に多い。東口からの入場は 18 時にピークを迎える。

５．田村駅利用者ワークショップ、アンケート概要

駅が単なる駅舎機能をもつだけでなく、人の集まる拠点として機能するよう、駅周辺を利用しやすい周辺環境とするため、地元住民や田村駅利用者等の意見や要望をワークショップやアンケートなどによって聞き取り、田村駅周辺整備基本計画に反映させた。

■地元自治会ワークショップ

・参加者
　田村駅周辺整備基本構想策定ワーキング部会（H27 年度の基本構想策定時に実施）
・テーマ
第１回　田村駅周辺のよい点、改善すべき点、まちづくり課題と将来ビジョンについて
第２回　まちづくりの方向性、導入すべき機能や実現可能な整備イメージについて
・結果概要
資料①のとおり

■田村駅利用者ワークショップ

・参加者
　（現在の主な利用者）滋賀文教短期大学生（23 人）、長浜バイオ大学生（25 人）
（将来的な利用者）子育て世代の女性（12 人）
・テーマ
田村駅を中心としたまちづくり　～駅舎と駅周辺～
・結果概要
滋賀文教短期大学生・・・資料②のとおり
長浜バイオ大学生・・・・資料③のとおり
子育て世代の女性・・・・資料④のとおり

■田村駅利用者アンケート

・対象者
田村駅利用者　１４９人
・調査場所
田村駅東口・西口
・アンケート結果
資料⑤のとおり

子育て世代の女性とのワークショップ

長浜バイオ大学でのワークショップ

滋賀文教短期大学でのワークショップ

資料①

地元自治会ワークショップ結果

将来ビジョン　『駅前整備からはじまる新たなまちづくり』（１班）
『自然豊かで　ますます孫の代まで　末永く暮らしやすいまち』（２班）

生活利便

●「食べ物横丁」をつくる
●ラーメン店を誘致する
●最低でもコンビニは必要。

○市場の駐車場でイベントを開催（きゃんせ市場を恒常的に）
○駐車場でフリーマーケット、イベントなど
○「食品長屋」をつくる
○市場の活性化もしくは有効な用途活用すべき（魅力ある店を！）

駅前

●イベント広場をつくる
●無料駐車場をつくる（ただし、放置されると困る。誰が運営するか課題）
●駅東口の整備。（送迎車スペースが狭いので広くする。）
●駅近くに公益施設を誘致すべき

○まず送迎の車の一時待機場をつくる
○駅前、保留地の有効利用、一時駐車へ

田村山など

●田村山を含めた花の公園づくり
●田村山の整備→駅からのウォーキングラリー、スタンプラリーなどの実施
●田村山全体を公園として整備する

○ウォークラリーコースを作成する

卸売市場

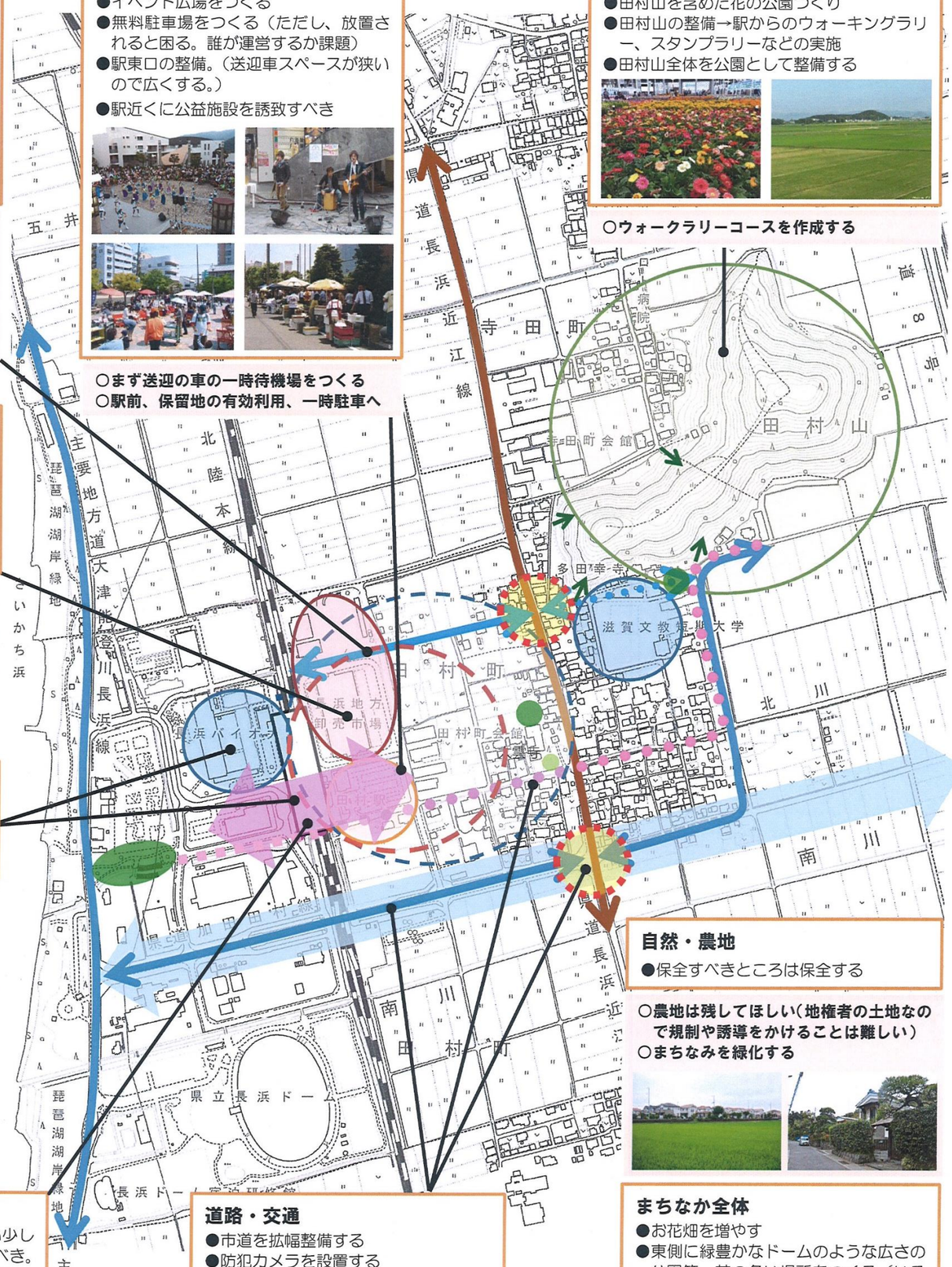
●魅力ある市場催し場にする
●市場内に店ができればいい（お寿司屋など）

○市場を食堂にし、イメージアップを図れば、学生や地元も集まる。これにより、東西の交流は活性化する。

大学・若者

●学生街のまちなかに図書館

○学生も地元もみんなが利用できる施設として→若者が集まる。（大学側も食堂などの施設を一般開放してほしい。駅西側にも行くことができる。）



自然・農地

●保全すべきところは保全する

○農地は残してほしい（地権者の土地なので規制や誘導をかけることは難しい）
○まちなみを緑化する

駅

●乗降客を増やすためには、他にない少し変わったデザインの駅舎をつくるべき。
●自由通路、エレベータの設置（バリアフリー対応）は必ず必要。
●駅にカフェ、展望スペース、東側に道の駅をつくる。

○駅西からの乗降客も増やす工夫が必要。たとえば案内表示も重要。
○その他周辺資源を活かし、駅東西の交流を増やしていくこと。そのためには、以下の内容の取組みを展開。）

道路・交通

●市道を拡幅整備する
●防犯カメラを設置する
●カラーのイメージハンプを整備する
●（駅前の通りは）桜並木の道をつくり（昔は桜があった）歩行者優先にする
●サイクリングロード（まちを一周）

○桜の苗木をみんなで植える（田村町民で）

まちなか全体

●お花畑を増やす
●東側に緑豊かなドームのような広さの公園等、花の多い場所をつくる（いろいろなお店が集まると思う）
●駅東側にも公園をつくるべき

○イベント広場でグランドゴルフ、パターゴルフ、テニスコートをつくって人を呼ぶ
○まず、イルミネーションづくりや街灯りイベントなど

田村駅利用者ワークショップ結果

資料②

●田村駅周辺整備イメージ（滋賀文教短期大学WSまとめ）

駅周辺整備

【公共施設】
公園、交流の場、運動施設、広場（シンボルがある、子どもが遊べる）

【道路整備】
街灯の増設、信号の増設

【利便施設】
郵便局（ポスト・ATM）、メガネ洗浄器

【観光施設】
観光案内所、足湯、パンフレットラック

【駅舎】
駅のランドマーク（シンボル、マスコット、イラスト画）
待合室の整備（冷暖房、Wi-Fi、東西ともに設置等）
駅の設備向上（ホームの拡幅、通報装置、電光掲示板）
駅のサービス向上（駅員常駐、みどりの窓口、遅延証明発行）
トイレの整備（多目的トイレ、パウダールーム、荷物棚設置等）
バリアフリー化

【卸売市場】
市場の魚を扱うお店、市場の開放

【商業施設】
コンビニ、飲食店、カフェ、本屋、100円均一ショップ、自動販売機、ショッピングモール、カラオケ

【駅前広場】
街灯、ロータリー、一時駐車場所の確保

周辺整備とあわせたソフト事業

田村駅周辺の観光マップの作成、季節ごとに地域の方の交流の場となるイベントの実施、ボランティア活動の実施（あいさつ運動、花壇整備）、地元の祭り時に市場の屋台を出店、地元農家による朝市

田村駅利用者ワークショップ結果

資料③

●田村駅周辺整備イメージ（長浜バイオ大学WSまとめ）

【琵琶湖沿岸】
コテージ整備

【バイオ大学】
科学館のような体験コーナーを設置

駅周辺整備

【観光施設】
歴史博物館、観光案内所、植物園、水族館、温泉、足湯

【道路整備】
湖岸からのアクセス道整備、街灯、道路案内標識の設置

【利便施設】
レンタカー、レンタサイクル

【公共施設】
公民館、コミュニティ施設、図書館、運動施設、交番、交流の場

【駅舎】
バリアフリー化
駅のランドマーク

【駐車場・駐輪場】
駅西側に増設

【卸売市場】
市場を活用したマルシェ

【商業施設】
コンビニ、スーパー、飲食店、喫茶店、居酒屋、娯楽施設、ドラッグストア

【駅前広場】
街灯、みどり(花)、銅像、シェルター、ロータリー、アートや絵

【田村山】
キャンプ場、ツリーハウス、アスレチック

周辺整備とあわせたソフト事業

朝市、食べ物屋台、イルミネーション

田村駅利用者ワークショップ結果

資料④

●田村駅周辺整備イメージ（子育て応援カフェＬＯＣＯ WSまとめ）

駅周辺整備

【駅前広場】
芝生広場、水遊び場、シェルター、広いロータリー、防犯灯、
自転車が乗りやすいコンクリート舗装、子どもがひとりで安全に遊べる場、
電車を見ながら遊べる施設、

【駅舎】
子どもが遊べる待合室の整備
暖かく、自由に使える授乳室の設置
トイレの整備（男子トイレにおむつ替えスペース設置、
子ども用トイレの設置）
バリアフリー化（ベビーカーが登れるスロープ設置）

【バイオ大学】
バイオ大学生と
子どもが交流で
きる場

【卸売市場】
子どもが見学でき、
遊べるような市場

【商業施設】
パン屋、うどん屋、スーパー、個性的な
カフェ、ドライブスルーができるお店、
イートインとテイクアウトができるお店

【駐車場】
料金が安い駐車場

周辺整備とあわせたソフト事業

電車やお店利用による駐車場料金の割引サービス

田村駅利用者アンケート結果

資料⑤

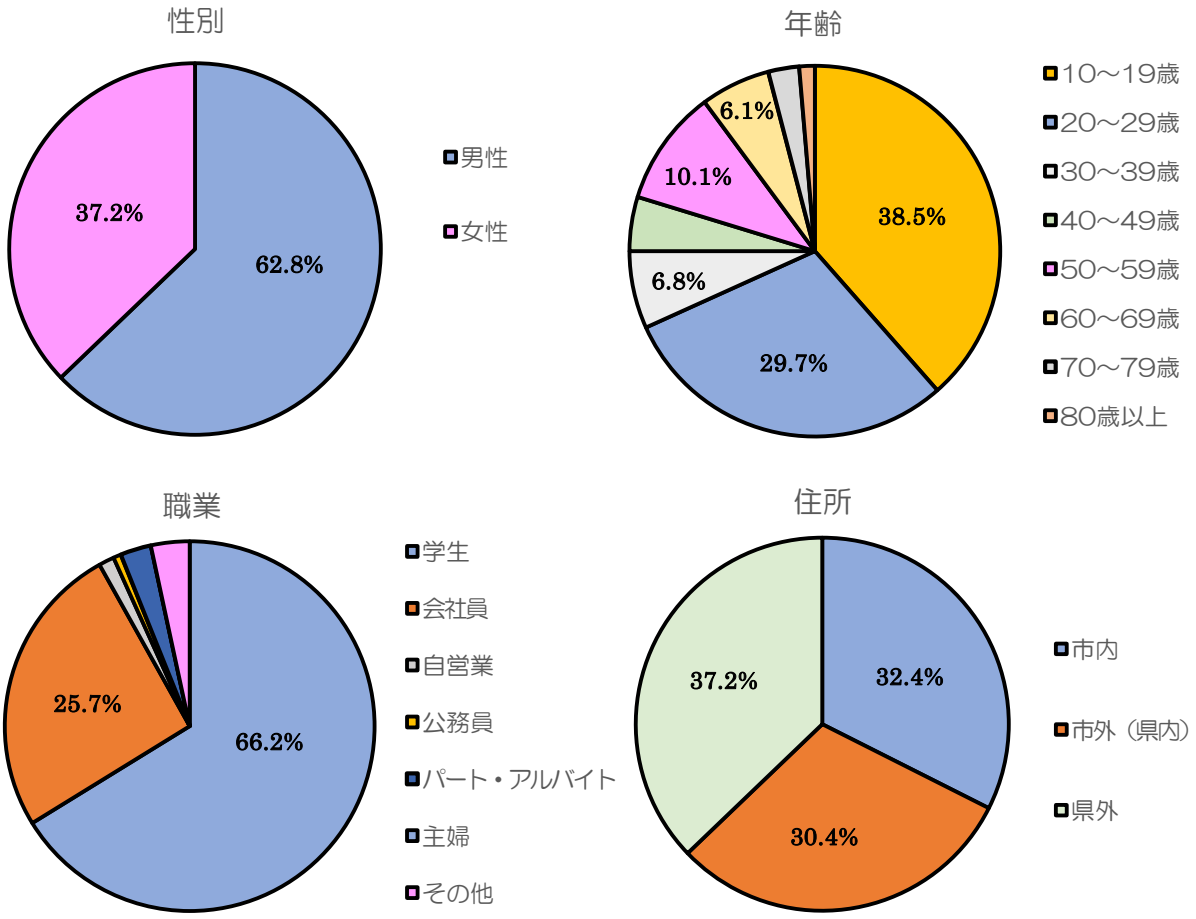
駅が単なる駅舎機能をもつだけでなく、人の集まる拠点として機能するよう、駅周辺を利用しやすい周辺環境とするため、田村駅利用者の意見や要望をアンケートによって聞き取りを行いました。調査の統計結果を見ると、田村駅の一般的な利用者層や利用傾向、周辺整備でのニーズなどとして、次のような結果がでています。

◇調査概要

【調 査 日】　平成２９年１１月２９日（水）１４：００～１９：１０
【調査方法】　アンケート用紙の直接配布による調査
【調査場所】　田村駅西口・東口
【回答者数】　１４９人※
※うち１人は意見のみでアンケート記載がなかったため、母数（N）からは除く（N=148）

◇田村駅の利用者層

・利用者の性別比率はほぼ2/3が男性で、利用者の年齢層は10～29歳の若者が2/3を占めた。
・利用者の職業を見ても「学生」が66.2%と高く、次いで「会社員」の25.7%となった。
・住所では、「市内」が33.7%、「市外（県内）」が30.4%、「県外」が37.2%と偏りの少ない結果となった。「市内」の利用者の中の29.2%が六荘地区の住民であり、「市外（県内）」の中では、彦根市が31.1%と多く、「県外」の中では、京都府が29.1%、岐阜県が20.0%を占める。



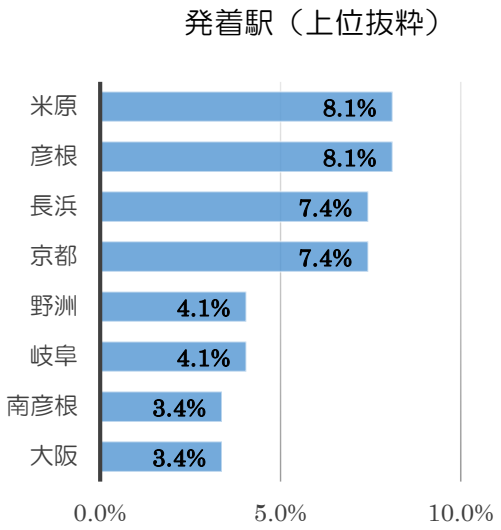
※ グラフ上では、5%未満の数値は非表示

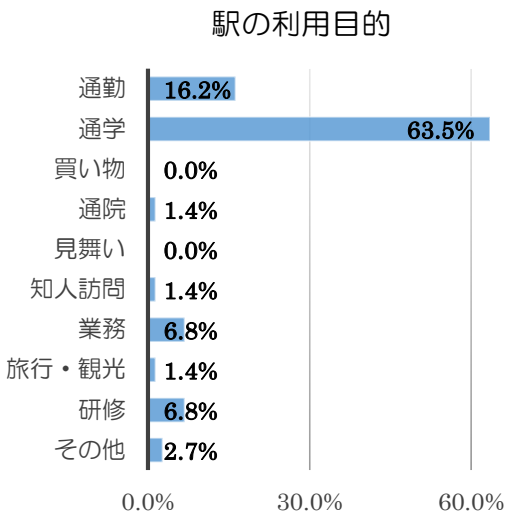
◇田村駅の利用状況

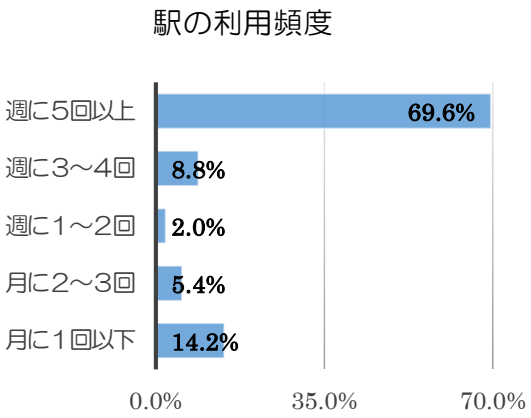
・利用者の田村駅を起終点とした発着駅のなかでは、米原駅、彦根駅が8.1%と最も多く、次いで長浜駅、京都駅が7.4%となる。

・利用者の利用目的を見ると、「通学」の63.5%がとかなり高く、次いで「通勤」の16.2%、「業務」と「研修」が6.8%となった。

・駅の利用頻度では、「週に５回以上」が69.6%と圧倒的に多く、次いで「月に１回以下」の14.2%、「週に３～４回」が8.8%となった。





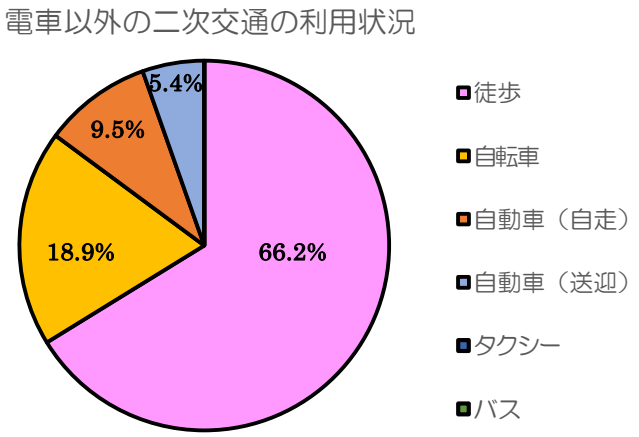


【参考】田村駅乗降客数調査（平日）

当該日の乗降客数 3,336 人のうち、通勤者が 634 人（19.0%）、大学生が 1,436 人（43.0%）、小中高生が 1,098 人（32.9%）、小学生未満が 5 人（0.1%）、その他一般が 163 人（4.9%）であった。

◇二次交通の利用傾向

・利用者の田村駅を起終点とした二次交通利用傾向としては、「徒歩」が66.2%とかなり高く、次いで「自転車」の18.9%、「自動車（自走）」が9.5%となる。バス・タクシーの利用者はいなかった。



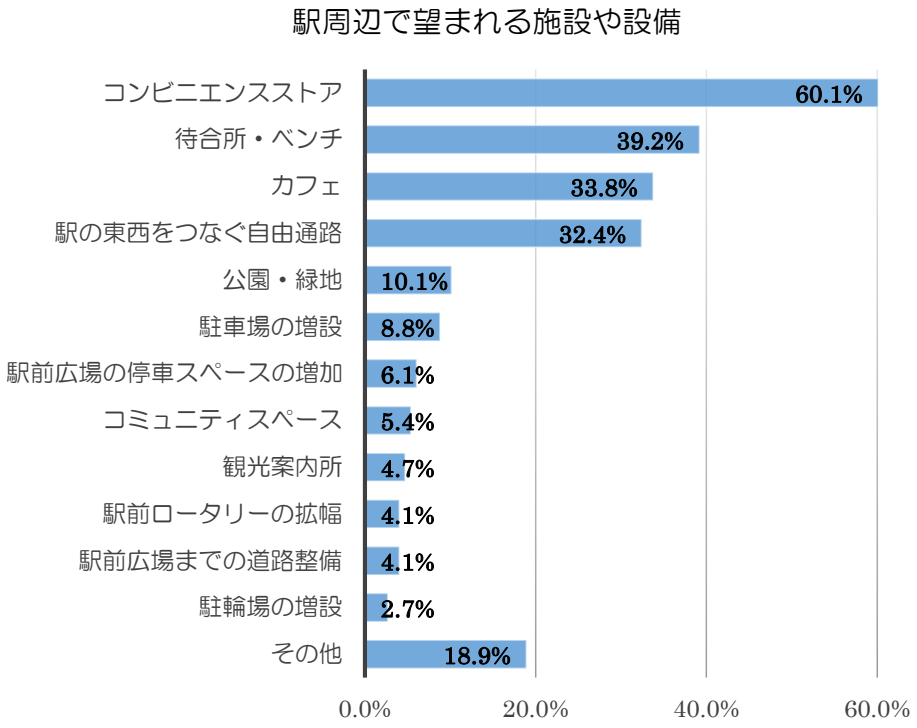
◇駅周辺で望まれる施設や設備

・駅周辺で望まれる施設や設備としては、「コンビニエンスストア」が60.1%と最も多く、次いで「待合所・ベンチ」や「カフェ」、「駅の東西をつなぐ自由通路」の比率が30%を超えて多い。

・「その他」として多く挙げられていたのは、「冷暖房」で待合室に備えてほしいとの声が多かった。（「その他」の詳細は次のとおり）進捗

その他意見（意見数）

冷暖房（8）、エレベーター（3）、カラオケ（3）、スーパー（2）、飲食店（2）、マクドナルド（2）、100円均一ショップ（2）、特になし（2）、信号機（1）、多機能トイレ（1）、街灯（1）　など



◇その他の田村駅に関するご意見・ご要望

・橋上駅にしてほしい
・駅を橋上化しないでほしい
・有人駅（JR駅員でなくても人を置いた駅）としてほしい
・電車の待ち時間を快適に過ごせる場所がほしい
・東西を切符なしで渡れるようにしてほしい
・電車着発時刻（遅延情報含む）の電光掲示板がほしい
・ホームの改良（拡幅、屋根設置、雨風よけの壁設置、虫駆除）をしてほしい
・電車を増便してほしい
・自動改札機を設置してほしい
・イコカの機械を更新（定期イコカ対応、500円チャージ対応）してほしい
・田村駅からのバスルートに長浜農高を入れてほしい
・市場東の竹藪を何とかしてほしい
・トイレに荷物をおくスペースを設置してほしい
・なにもなさすぎて一番さみしい駅
・今のままで最高です

田村駅利用者の多くを占めるのは学生で、彼らは、行き帰りに寄れる「コンビニ」や電車の待ち時間を過ごせる「カフェ」「待合所・ベンチ」に対するニーズが強い。また、「公園・緑地」を求めている人のほとんどが学生であることも注視すべき点である。
学生の次の利用者となる通勤者にとっても、行き帰りに寄れる「コンビニ」が求められており、これに次いで、東西を渡れる「自由通路」が求められている。
第３の利用者となるのは、駅西側にある研究・研修施設や長浜ドームの利用者で、利用頻度の少ない人が日に入れ替わって利用されており、彼らは昼食を買える「コンビニ」や電車の待ち時間を過ごせる「カフェ」のニーズが高い。

６．用語の解説

あ行	
アクセシビリティ	近づきやすさやアクセスのしやすさのことを指し、利用しやすさ、交通の便の良さなどの意味を含む。
エリアマネジメント	特定のエリアを単位に、民間が主体となって、まちづくりや地域経営、地域連携を積極的に行おうとする取組のこと。
オープンスペース	一般的に、空地又は公園、広場、河川、歩行者通路等の建物によって覆われていない土地のこと。
か行	
狭あい道路	幅員４m未満の道路で、建築基準法第 42 条第２項・第３項の指定を受けた道路（２項道路・３項道路）や、未指定の通路のこと。
建ぺい率	建築物の建築面積の敷地面積に対する割合のこと。都市計画で用途地域ごとに制限が定められている。
交流人口	外部からある地域に何らかの目的で訪れる人口のこと。
コンパクトシティ	駅周辺など交通利便性の高い都市の中心部に行政、商業、住宅など様々な都市機能を集中させた形態の都市構造のこと。集約型都市構造ともいう。これ加えて、都市拠点をネットワークでつなぐことで圏域として高次都市機能の補完を図ることを「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」という。
さ行	
シェルター	風雨・危険などを避ける避難所のこと。本計画では、屋根付き通路のことをいう。
市街化区域・ 市街化調整区域	市街化区域は、都市計画区域内で、既に市街地を形成している区域及びおおむね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域のこと。一方、市街化調整区域は、都市計画区域内で、市街化を抑制すべき区域のこと。
た行	
ダム機能	川をせき止めるなどして水量調節を行う機能を持った大規模な堤防がダムであり、そこから派生して大都市圏への人口流出を防ぐといった機能を人口流出に対するダム機能としている。
定住人口	その地域に住んでいる人口のこと。
都市機能	電気、水道、交通等のインフラや、行政機能、商業、教育、医療、福祉、文化の場としての機能などを含んだ都市が持つ機能のこと。より広域的な都市機能を特に高次都市機能という。
都市計画決定	都市の健全な発展と秩序ある整備を図るための土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に関する計画（都市計画）を一定の手続により決定すること。都市計画の決定権者は、原則、都道府県又は市町村である。

都市計画道路	都市計画決定された道路のこと。主に４種類（自動車専用道路、幹線街路、区画街路、特殊街路）に区分され、都市構成上の骨格を形成する道路となる。
都市公園	都市公園法に基づき、地方公共団体又は国が設置する公園又は緑地のこと。公園がもつ機能によって、住区基幹公園（街区公園、近隣公園、地区公園）、都市基幹公園（総合公園、運動公園）、大規模公園（広域公園など）、国営公園、緩衝緑地等（特殊公園など）の種類がある。
土地区画整理事業	道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図る事業のこと。減歩（事業に土地を提供すること）と換地（事業による土地の交換）の制度により、公園、街路等の公共施設用地を生み出すところに特色がある。
な行	
農用地区域（農業振興地域における農用地区域）	今後、相当期間（おおむね 10 年以上）にわたり、総合的に農業振興を図るべき地域として、都道府県知事が指定した農業振興地域の中で農用地として利用すべき土地として指定された区域のこと。（青地ともいう。）
は行	
Park-PFI	飲食店、売店等の便益施設の設置と、その収益を活用して公園内の園路、広場等の施設の整備・改修等を一体的に行う者を公募により選定する「公募設置管理制度」のこと。都市公園における民間資金を活用した新たな整備・管理手法として、平成 29 年の都市公園法改正により新たに設けられた。
バリアフリー	建築用語で、しょうがいのある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去することをいい、具体的には段差等の物理的障壁の除却をいう。より広い意味としては、しょうがいのある人の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的な全ての障壁の除去という意味でも用いられる。
風致公園	都市計画法に規定される都市計画公園である特殊公園の一種で、主として風致（自然の風景等の趣、味わい）の享受の用に供することを目的とする公園のこと。樹林地、湖沼海浜等で良好な自然的環境を形成する土地が選定される。
風致地区	都市において良好な自然的景観を形成している土地について、土地利用計画上、都市環境の保全を図るため風致の維持が必要な区域として定められた地区のこと。
プラットホーム	鉄道駅において列車から旅客の乗降、または貨物の積み下ろしを行うために線路に接して設けられた土台のこと。略して、「ホーム」ともいう。
ま行	
まちづくり	一般的には、まちを発展するための取組をいい、本計画では、建物や道路といったハード面や、歴史文化・地域資源の活用などのソフト面をあわせてまちを発展させることをいう。

や行	
容積率	建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合のこと。都市計画で用途地域ごとに制限が定められている。
用途地域	住居、商業、工業等市街地の大枠としての土地利用を定める都市計画法上の指定地域のこと。用途地域は 13 種類あり、建築物の用途、形態、建ぺい率、容積率等を定めている。

田村駅周辺整備基本計画

発行	長浜市都市建設部都市計画課田村駅周辺整備室 〒526-0031 滋賀県長浜市八幡東町 632 番地
発行年月	平成 30 年 5 月